

防災を伝えるということ

一年組三王一番 藤井 麻有

今日、大学生の方から早大防災支援会の活動報告を聞きました。私はH.A.T神戸に来てから阪神淡路大震災での地震や防災のことに ついてふれることがとても増えました。その中で多くの死者や建物の崩壊など大変な被害があつたことも知りました。

今回はインドネシアの地震、津波が来たときの写真や体験談を聞きました。写真にはどろだらけの町や多くの死者、傷だらけの少年、痛痛しいものばかりでした。体験談は当時の

少年のつらさや苦しみが書かれていました。私はそれらを見て、どうしても早くインドネシアの方々に防災のことに ついて伝えることができなかつたのだらう。もし、この地震より先に情報が行つていればもっとたくさん の人の命を救うことが出来たのではないか、と思いました。

そして、最後に見たインドネシアの少女の言葉

「二百年も前に、悲惨な思いをした日本人

藤井麻有

々かなぜ、もっ　と早くにそのことを教えてく
れなかつたのか。　
という言葉を読んで　私は胸が痛くなりました
た。この少女の気持ちは本当によくわかりま
す。日本の人々が防災のことで教えてくれて
いれば自分の大切な人は助かることができた
のかもしれない。　というほんの少しの希望が
この言葉の中にこめられているのだと思いま
す。

地震や津波は自然の問題だからどうするこ
ともできないことかもしれません。　だけど
このなふうにつらい思いをする人々が少しで
も減るように、私達は世界の国々、子孫など
たくさんの人々に防災を伝えていかなければ
いけないんだ。　と感じました。